●「北海道の学校事務」の現在・過去・未来

〈第 8 回〉

温故創新（下）～教育情報活動

現任校に着任した6年前の4月、PTAと地域の公民館が共催する教職員歓迎会が行われました。私の他に教員1名のための歓迎会でしたが、150戸足らずの小さな集落ながら、60名を超える出席者がおり、学校への深い愛情と強い思い入れが伝わってくる歓迎会でした。

「事務職員の北野大地です。よろしくお願いします」。参加者のテーブルを回り、一人ひとりに自己紹介を兼ね、あいさつをしました。しかし、反応は今ひとつです。「まぁ、頑張って……」。冷ややかな視線や愛想笑いの数々から、地域との間にある厚い壁と事務職員に対する薄い期待を感じずにはいられませんでした。前任者がどのような仕事をし、地域や保護者とどのように接してきたのかは知るよしもなく、もちろんそれを前任者の責任にするつもりはありませんでした。

その時、心に堅く誓ったことが二つありました。その一つは「学校事務職員」という職種を何とか地域や保護者に理解をしてもらうために、日常の学校事務をしっかりとすすめながら、学校事務職員が学校に居る理由（わけ）と、これからも居なければならない理由（わけ）を広くアピールしたい――ということでした。そのために、校内の業務はもとより、PTA活動や地域行事にも積極的に関わりました。そして、多くの人とのつながりが生まれ、地域や保護者との壁も無くなりつつありました。

しかし、それは「人間・北野」と地域・保護者とのつながりでした。そこで、「学校事務職

員・北野」としての新たなつながりのために、「地域向け事務だより」の発行を試みました。「職員向け」や「児童向け」の事務だよりは発行したことがあるものの、「地域向け」はこれまで一度も発行したことはありませんでしたが、千載一遇の好機と前向きに考え、作成をすすめました。完成後、校長に対しこれまでの経緯と現在の私の思いを話し、内容を理解してもらった上で、地域全戸に「地域向け事務だより」が配布されました。気がつけば季節は夏真っ盛り、夏季休業直前のことでした。

■教育情報活動の過去の実践をひもとく

「北海道の学校事務」において教育情報活動とは、情報を通して学校における人間関係を切り結び社会化・集団化していく活動と押さえ、事務職員はその中心となって教職員・保護者・地域住民に働きかけをすすめてきました。

事務職員が積極的に情報を用いての活動は、「領域」の提起以来30年にわたり全道各地で実態化が広がっています。最初は「教職員向け事務だより」「校内文書の管理・活用」等のとりくみから始まった情報活動は、「情報」という言葉が広い概念によってわかりにくく、全道でもなかなか有効な実践報告がありませんでした。さらに一部では財政財務活動を活性化する活動と捉えられた地域もあり、「領域」としての情報は全道各地で多様な考え方の中、試行錯誤しながら現在に至りました。

この間、コンピュータの急速な普及により、情報管理の分野においてコンピュータの機能と運用等が社会的問題として学校事務になげかけられました。また、各自治体での情報公開条例や個人情報保護条例の制定に伴い、学校の説明責任や意思形成過程情報の公開、さらに子どもたちのプライバシー保護のとりくみ等、学校全体ですすめる必要性が強くなってきたことから情報管理委員会の設置や対応し得る校務分掌への名の変更など、事務職員を中心とした情報活動が必要になりました。このように社会情勢の大幅な変化とともに、教育情報の課題も変化してきました。

しかし、例え情勢や課題が変わろうとも、学校事務のとりくみを通して協力協働のありかたを提起し、全職員さらには保護者・地域との共通理解と連帯を図りながら、「学校づくり～教育の仕事の組織化」をすすめていくという手法は「北海道の学校事務の原点」であり、これからも変わることはありません。そして、これまで北海道で続

写真提供：富良野市立樹海小学校　校長　久守清志

◆ 後 志 に お け る 「 情 報 」

後志支部（第38回全道事務研問題提起より－1988年）

情報は社会全体に係わるものであり、１人事務職員のみが携わる性格のものではなく、組織内にあってはその構成員個々が持っているものも数多くあることから考えてみれば、狭い範疇にとどまるものではない。組織内の構成員個々が持っている情報も数多くある事から考えて、これを還流させる、あるいは有効に活用させていくための活動が必要である。

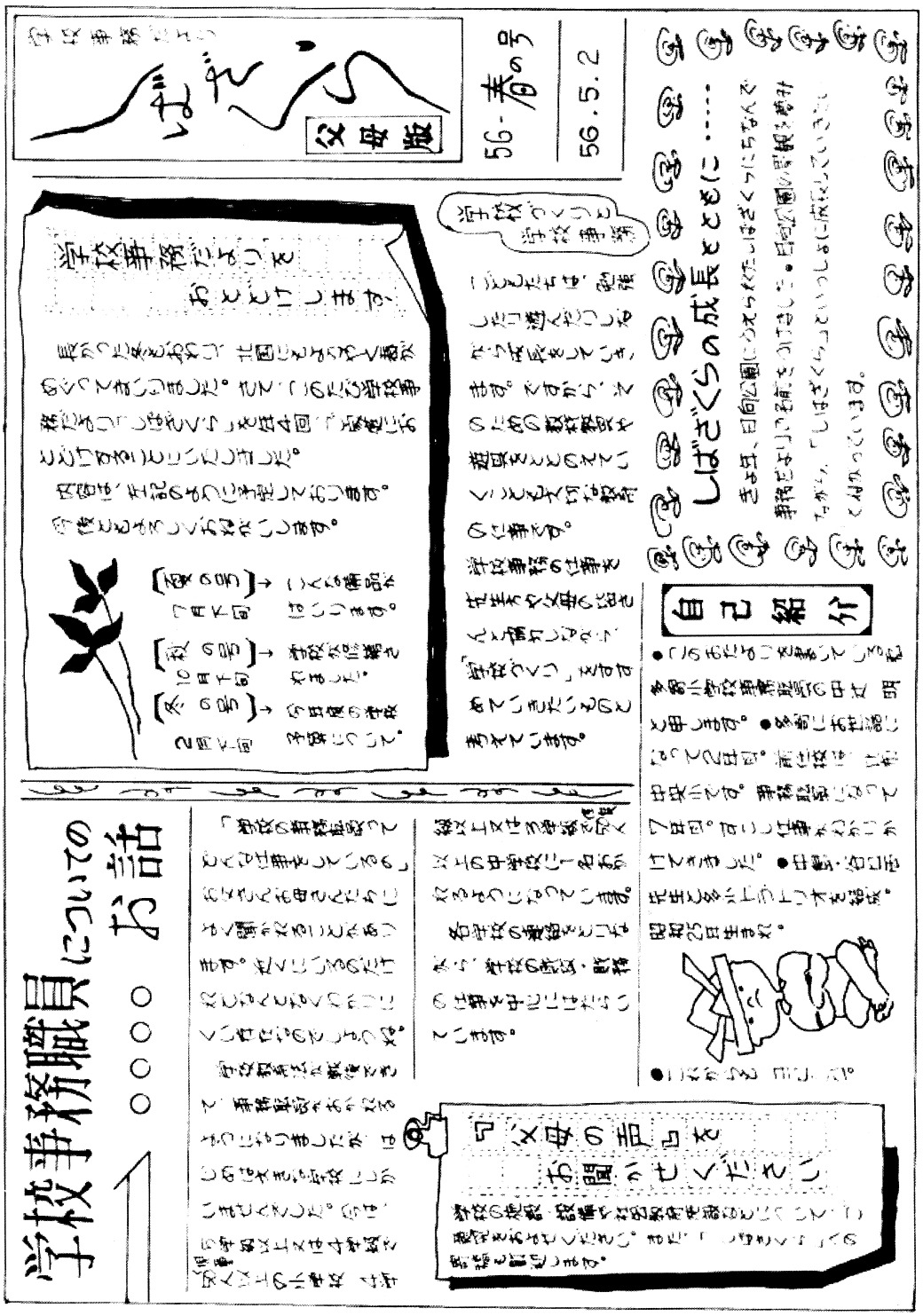
そのためにも、私たちの側から積極的に働きかけることも大切であるが、「学校づくり」の観点から個々が持つ情報の活用をどのようにしていくかを考えていかなければならない。

従前、今日に至るまで学校における情報が「文書主義」に基づき、公文書といわれる行政の意志のみが唯一有効な拘束力をもって処理され、教育現場が行政の末端として機能してきたことから一歩踏み出し、「学校づくり」のために教職員の活動をより有機的に結合し発展させるための役割を持たせるのである。私たちは、このように情報を還流させる活動等と合わせて、組織化や共通理解を形成するための創造活動を情報活動に求めるのである。

一時、情報活動の実践の代表と言えば、文書のファイリングシステムと事務だよりであった。しかし、今はそのような活動は、どちらかというと情報活動のための条件整備的に考えられている。というのは、学校や職員の意識が変わって初めて情報活動であると考えた場合、来た文書をただ単に整理したり、事務だよりを出して知識を増やせることだけでは情報活動ではないと考えるからである。ファイリングした文書を職員が活用し、その結果として職員の意識が変わってきた、事務だよりに書いた文章が元になって論議が起こり、職員の考え方が変わってきた、ということであれば情報活動の一端になろうかと考える。

給与や共済の情報も情報にかわりがないとしても、私たちが目指すものは教職員間を行き来し、「学校づくり」に結び付くものでなければならないと考えるからである。私たちが情報活動を考えるとき、基底においておかなければならないことは「有機的、非管理的に組織された教職員の協力・協働」を目指し、情報をどう駆使するのかということである。またそのための情報活動とはどのようなものなのかということを絶えず模索する姿勢であろう。そのためにも、教育の現状を捉えかえすことが重要となってくるのである。領域実践は、教育を変える運動としての位置づけを目指すものとの認識に立つからである。

（現：旭川市立共栄小学校　中辻明さんの実践例）



学校事務職員についての話

○○○○

学校事務だより

おとどけ

56.5.2

56-春の号

しばざくらの成長をともに……

分掌紹介

学校事務だより
しばざくら
第5507号
S.55.11.29

校内研『教育情報システムの検討』十二月九日に決定！

十一月に一担予定をくんだ「学校事務」に関する校内研『教育情報システムの検討』は、十二月九日(火)に実施されることになりました。

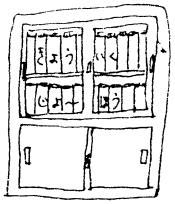
前号でも述べましたが、レポート作成の意義などについて述べてみたいと思います。

× × ×

これまで、学校事務についての研究は、主に事務職員組織の研修会で行われてきましたが、その成果を実践する場である個々の学校での話しあいはあまりされてこなかったように思います。そのため、全教職員が同じ認識になかなか立てず、実践を学校組織体のものとまで高めることができないことが、おろおろにしてありました。これからは、さまざまな工夫をしながら、全教職員が意志の疎通をできる場を作っていく必要があるでしょう。

× × ×

本校においては、校内研という貴重な場が設定されました。前段で述べたことの達成そのものが「情報システム確立」につながるものと思います。実りある討論を心から期待します。



全道事務研の研究にあたる ―士別地区で担当

来年七月、岩見沢市で開かれる全道事務研の第四分科会「学校づくりと教育情報」のレポート提表が、上川にあたり、協議の結果、士別地区でプロジェクトチームをつくり研究を進めていくことになりました。

私も、その一員となりました。また、学校をあげることが多くなると思いますが、現場に生かせるものにするため頑張ってがんばりたいと考えてます。

精求書等 17日までに ―市至理関係

市至理関係の伝票をすっきりさせて明るい正月をむかえましょう。

そのために、十二月十七日を請求書等の最終〆切とします。ただし、業者への年内支払は、十日ごろ提出まで可能とのこと。お早目に。

投稿 体育の用具

教諭 中島 寿行

新学習指導要領で「バスケットボール」が体育の教材に組み込まれました。移行期中にボールだけはクラブ費・PTA費で購入しておき、ポールは昼時に使ったり、ゴールバイを用いた簡易バスケットボールに使ったりしていました。しかし正式な教材として取り入れるのならゴールがほしいなと常々思っていました。何十万するという用具ですから無理だなとあきらめていたところ、案外あっさりと移動式ゴールが設置されました。この間のように、高額なものでも簡単に手に入ったり、何年も「あれがあれば」と思っていながら予算の都合で購入できず現在に至っているものもあります。確かに新しい用具が入ることはないのですが、なければないで各々の工夫を生かし体育の授業は成り立っていくと思います。私の「ほらさがし使用法」というのがありますが、購入した2・3日はさかんに使っていましたが、最近では洗濯物をかけるのに多く使っています。学校ではこんなことはないと思います。なければよしと思います。なければないなりに工夫をしていくことが大切だと思います。

こちらデスク

⊙投稿シリーズ第2弾！中島先生から、積極的な投稿がありました。心から感謝します。

⊙……第3弾、よろしくたのみます。（石川先生にお願いしています。×おたのみに）

⊙教材備品点検、ついに終盤をむかえました。あと少し……しかし、「算数」という大物が……

⊙「一式」というのは、まいります。寝屋科「教育用具一式」……ゴルはどこだ！

山田先生、どうもご苦労さん。「教育としての学校事務……」はおはずします。

11月のしゅくだい

基外（特学）
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

学教
校内研「情報」（士別地区研究会）
事務だより発行
消耗品調査
市至理〆切
松原公民館（備品について）
終業式
冬期休業
道外視察（東京）
備品点検

けられ積み上げられてきた実践や考え方を、常にひもとき、その価値を北海道の学校事務職員全員で確かめ合いながら学校事務を進めていく必要があります。

■現在の教育情報活動の現状と課題

現在の教育情報活動において、当初から行われていた「事務だより」は「保護者向け事務だより」「子ども向け事務だより」に発展しています。

また、児童生徒・保護者に対するアンケートによる情報収集のとりくみは広がりを見せ、「開かれた学校」「知る権利」を意識した実践が行われ、情報の双方向性へとつながっています。そして、文書の管理は単なる文書分類表やファイリングから、個人情報の有無や廃棄の方法まで一貫した文書管理の方法を提示し、実践されるようになってきました。

しかし、学校は依然として閉鎖的な部分を残しています。「保護者負担」を例にとってみても、学校徴収金の根拠や公費との支出割合などは、保護者にとって当然の関心事であるにもかかわらず、学校からの実情説明が十分なされているとはいえません。「本当に伝えなければならない情報とは何か」「相手が欲している情報とは何か」を校内で分析・判断しながら、今後はこのような情報についても私たち事務職員が中心となり、積極的に発信していく必要があります。

また、事務職員をとりまく状況が年々きびしくなる中、事務職員が学校の中に必要な職であり、「効率化・合理化」により切り捨てられない職であるということを内外に幅広くアピールする必要があります。今後は学校必置職としての私たちの仕事の重要性・必要性などについても、意図的・自発的にどんどん発信していかなければなりません。

そして、情報発信のみならず、情報収集・活用の分野においても、これまでにも増して双方向の情報交換・交流を活発に行い、子ども・保護者を含めた「学校づくり」がすすめられていかなければなりません。そのために私たち事務職員だからこそできる、保護者・地域との情報の共有を行うことがさらに重要になっています。児童生徒・保護者に対するアンケートや保護者・地域に向けた「学校事務だより」を発行し、学校を知ってもらい育ててもらうことによって、学校事務職員は、より開かれた学校、地域コミュニティーの中心となっていくのではないでしょうか。

●現在進行形の教育情報活動～「保護者向け事務だより」の実践を通して

（北海道北部　稚内市立稚内中央小学校　藤田幸一さんの実践例）
（北海道中央部　滝川市立滝川第二小学校　髙橋秀幸さんの実践例）
（北海道南部　七飯町立大沼中学校　秋浜晋一さんの実践例）

稚内中央小学校　〔保護者の皆さまへ〕

学校事務だより

２００９．７．２２
発　行

＜事務職員＞
藤　田　幸　一

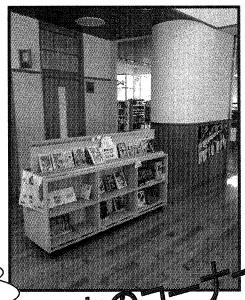
ブックランドの図書を購入しました

今年度の児童用図書購入費の配当額は１９６，０００円です。中央小学校では公費の他に、PTA 図聴費として1 世帯２００円を負担していただいています。これらのお金を活用して毎年ブックランドの図書を整備しています。

今年度もすでに、配当予算から調べ学習用の図鑑と夏休みの貸し出しや朝読書に向けて約 110 冊の図書を購入しました。

中央小学校では、毎年約２５万円分の図書を購入していますが、児童数に対しての絶対数が足りません。もしご家庭に読み終わった本などで学校へ寄贈していただける本がありましたら、ご連絡をいただけると幸いです。

今後も学校図書館の充実のため、先生方や図書館支援員の方と連携を密にして、取り組んで行きたいと思います。



新しい本のコーナー

ブックランド便り No.3 でもお知らせしていましたが、新しい本を中心に約 30 冊所在不明となっています。もし、ご家庭　　に返却忘れの本がありましたら、至急返却をお願いします。

☆「生活の場」としての学校の実現をめざして☆

私たち学校事務職員は、学校を子どもたちが 1 日の大半を過す「生活の場」としての視点から、教育環境整備の取り組みを行っています。昨年度、北地区の事務職員が中心となって稚内市教育研究会に設立した教育環境部会のとりくみも 2 年目を向かえました。今年もトイレに視点をあてて研究を行います。住生活の向上により住宅や公共施設のトイレはきれいで快適なものが増えてきていますが、全国的に学校のトイレは十分に改善されていない場合も多く、学校での排便を我慢する子どもたちの健康が危惧されているとの報告もされています。

今回は、いわゆる小 1 プロブレムを取り上げ、小学校 1 年生から 3 年生と幼稚園及び保育所へのアンケートを実施します。

小学校は、幼稚園・保育所とは広さや高さなど建物自体の規模が大きく異なります。広くて大きいという心理的な不安感や混乱が考えられます。たとえば、トイレから戻るとき左右が逆になり教室がわからなくなる。あるいは、校庭でケガをしたときに保健室の場所がわからなかったり、担任の先生がいる職員室へはどういったらいいのか戸惑ったりする場面もみられます。毎日生活する場で、行きたいところへ迷わず行けることが、自信をもって行動できることにつながり、学習面でもプラスになると考えられます。稚内の各学校では、1 日体験入学や入学後の校内探検などで子どもたちがスムーズに学校生活に移行できるように様々なとりくみがされています。市内の他の学校とくらべ、中央小学校ではトイレや水飲み場が学年スペースに設置されているなど工夫された校舎設計になっていますが、稚内全体の教育環境を向上させる観点でとりくみを進めています。

今年度はアンケート調査の他に札幌の先進校への視察も予定しています。これらの調査から得られたデータを検証して今年も教育委員会へ報告し施設設備の改善へとつなげていきたいと考えています。

調査結果につきましては、事務だよりのなかで報告させていただきます。

学校納入金について

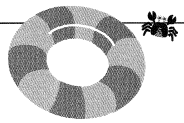
４月・５月・６月に、学年教材費及び PTA 会費などの納入をお願いしていましたが、まだ入金されていない家庭が若干あります。1 学期も終わりに近づいています。入金が滞りますと教材納品業者への支払いができないなどの原因になりますので、早めの納入にご協力をお願いいたします。

なお、信金の納付書はもう利用できませんので、直接学校までお願いいたします。

小1プロブレムについて

小１プロブレムとは、小学校に入学したばかりの児童が落ち着いて教師の話を聞けず、友達と騒いだり教室を歩き回るなどして授業が成立しない問題です。

原因は様々ありますが、就学前教育と小学校教育の「接続の段差」も指摘されています。幼保～小への段差をなめらかにするための連携が大切です。稚内では、幼保小の連絡会議を定期的に開催して連携を深めています。



じむだより

２００９年
８月２１日
第３号
発行責任者
滝川第二小学校
事務職員
高橋秀幸
℡２３－２０２７

保護者向けじむだより
アンケート結果

子どものアンケート集約しました

毎年恒例となってきている「子どものアンケート」を実施しました。

一年生は初めてのとりくみでしたが一人ひとりが気付いたことや意見を記入してくれました。

＊回収率９７．３％

今年は、七月六日から一〇日にかけて全校児童に協力を願い「アンケート」にとりくみました。

児童一人ひとりが生活の場である学校で、どんな願いや思いをしているのか書いてもらいました。

よく目につく営繕から、夢のような願や、登下校の安全を含め、多くの声を聞かせて頂きました。

全て直ぐに解決したり、改善したり対応できませんが、全てを受け止めこれからの学校要望書に活用し、自助努力を含め、教育環境を充実させていきたいと考えています。

別紙に、集約結果を全て掲載し、裏面に簡単なコメントも掲載しましたので、ご覧ください。

アンケートをまとめました。

今年も多いトイレの要望

昨年同様トイレに関する意見が圧倒的でした。清掃等がされましたが、昨年の九六票の記録を更新し、九九票を記録してしまいました。

これまでも多くの指摘がされ学校ではどうにもならない状況であり、専門業者による臭気抜きの掃除を、お願いしていました。

年度末（三月）に業者による臭気抜きの排水溝清掃等がされましたが、学校要望書でアンケートの結果に基づき要望した結果と考えています。

しかし、一回ぐらいでは全員が毎日使うものでなかなか「臭気」がおさまらないようです。引き続き教育委員会に働きかけします。

トイレ同様、廊下や教室のタイルの営繕を求める声が多くありました。

「タイル」は、この夏休み中に剥がれた部分を補修しましたので、前より明るく綺麗にすることができました。

「あったらいいな」と思うもの

エレベータ・エスカレーターが1位でした。

また、暑さ対策のため網戸・エアコン、無理なら扇風機との意見も多く空調関係と集約すると第一位となります。今年の特徴は遊具（ブランコ）を求める声が全学年に渡り多くなっていることです。また、水飲みに関する意見も多くあり何らかの改善が必要と考えています。

多くが「壊れている・直して」に関連する部分があることから営繕可能な点、実現可能なもの、教育委員会に要望する等の関係者・機関に働きかけるもの等を整理し検討します。

学校へ来る途中で「危ない」と思うところはどこですか？

今年のアンケート内容

教室・
特別教室（理科室
図工室・
工作室・
多目的室）
体育館
プレールーム
トイレ
廊下
グラウンド
その他の場所

音楽室・図書室
ＰＣ室・視聴覚室・
放送室・家庭科室・

2．いろいろな活動の中で「こんなものがあったらいいな」というものはありませんか？

3．学校に来る途中ではありませんか？
通学途中の道路・
歩道橋関係・玄関・
公園・その他

「危ない」と思うところ
国道１２号線・交通マナー
グラウンド

児童のアンケート

1．学校では、皆さんが毎日勉強したり遊んだりしていますが、「こわれているよ」「ここを直して」というところはありませんか？また、「こんなふうにしてほしい」・「こんなものがあったらいいな」と思うものを教えてください。

去年に続きアンケートをします。

アンケート結果は、子どもから寄せられた貴重な意見で、活用方法を含め児童一人ひとりに還元すべきところですが、ちょっと難しい点もあり保護者の皆様向けに「じむだより」として昨年に引き続き発行します。アンケート結果は、毎年新しい発見などもあり改めて気づくことが多くあります。一人ひとりの声を大切にし、すぐ対応し改善できるもの、教育委員会に要望していくもの、また、学校・学級で対応するものなど整理し早速に対応したいと考えています。改めて学校の様子なども知って頂ければと考え、子どもたちの声全てを掲載しました。もし、保護者の視点で、お気づきの点などがありましたら、お知らせいただければありがたいです。

おうちの人と読んでください

安心安全を求めて

昨年から、アンケート結果を参考に９項目に絞り込み意見を聞いています。

通学途中の道路・車、国道12号線、交通マナー、歩道橋に関わる事項、玄関、グラウンド、公園、その他として聞きました。

歩道橋、交通マナー等集約した場所ごとに声を整理しました。

関係する方面と相談したり、結果を活用していきたいと考えています。

通学途中の安心・安全を求め、学校敷地内は、改善可能なものや注意を喚起すること等整理し、とりくみたいと考えています。

編集後記

今年も児童の協力によりアンケートにとりくむことができました。

昨年に引き続きアンケート結果を「事務だより」としてお知らせします。

詳細な集約結果など保護者の皆様と連携を図り、子どもの学習環境をより一層充実したものにできればと考えています。お気づきの点などがありましたらご遠慮なく学校に連絡を頂きたいと思います。

各教室・場所ごとに壊れている・直してを聞きました。

教　室	「机・いすを直して」との声が多く出されています。机・いすは、毎年若干更新（昨年は七セット程度）はしているのですが、傷みに追いつかない状態です。いすの座る部分や背もたれ部分の「ささくれ」など気になるところですが、学校としても更新に期待しているところです。また、黒板を直しての声もありますが、全面的に塗付などしなければいけない状態になっていますので、教育委員会にお願いしたいと考えています。
理科室	教室同様、机・椅子の声が多くなっています。綺麗にしてなどの要望は校舎が古いので難しい点もありますが、実験道具などは教科の先生と相談して整理したいと考えています。
音楽室	机・いすの要望が多く出されています。また、今年は「虫」の駆除が出されています。楽器の修理の声がありますので相談し整備したいと思います。床のカーペットは、予算の関係でクリーニングも難しい状況にありますが、虫は駆除しました。
図書室	「本を増やして」と多くの声があります。毎年、計画的に購入し整備を進めていますし、PTAにも全面協力頂いていますので、冊数としてはそれなりと考えます。ただ、種類の希望も多くありますので、担当の先生と十分相談していきます。
図工室	図工室も机に対する意見が一番でした。画板の汚れや道具等毎日の授業で利用していて気付いたことはこれからも教えてください。
パソコン室	パソコンをブロックしないでとの声があります。学校のパソコンは授業で使うものでフィルターは支障にならないと思います。また、壊れているのはその都度修理していますのですぐ教えてください。また、今年はゲームソフトを購入していますので先生に相談して使ってください。
視聴覚室	いろんなものを置いて等、使い勝手を良くして欲しいとの指摘となっています。利用方法で改善が図れる点もありますので検討します 床は、カーペットクリーニングが音楽室同様難しいと考えています。
工作室	図工室同様、机・椅子が１位です。道具を増やしての意見もありますが、今後の状況を見て一層の整備充実に向け担当の先生と相談します。
放送室	放送用の調整卓等は、備え付け施設備品で更新は難しいので、周辺機器で充実させていきたいと考えています。広くしてほしいの声もありますが、整理整頓をして使い勝手を良くしたいと考えています。放送内容は、児童会の皆さんと相談してみたいと思います。
家庭科室	昨年同様、テーブル（机）、いすの傷み、汚れ等含め指摘されました。老朽化はどうにもできませんが、教室使用後の掃除の方法を含め、綺麗にしていきたいと考えています。
多目的室	学年ごとに整理状況が違いますが、広くしての声にはもう少し整理をして改善が必要かと考えています。床は、順次タイルを貼っていく予定ですが、タイルの数にも限りがあり後回しになってしまっています。
体育館	多くの「ボール」使用の声があります。利用方法を含め相談したいと考えています。また、ラインテープ、床の要望もありますが、床は難しいですがラインテープは相談します。また、体育館の天井は雨漏り剥離など危険もあり学校としても要望しているところです。
プレールーム	壁の穴（絵の補修）が出されています。物品を整理する場所がないのであまり教材を置かないようにしていますので、狭いけど仲良く利用してほしいと考えています。
トイレ	「臭い」「綺麗にして」と３割の人が指摘しています。水の流れ、タイルのはがれ、暗い等々指摘されていますが、そのとおりです。学校としても掃除の限界もあり専門業者による清掃を引き続きお願いしていきます。人間にとって大切な排泄であり、全員が毎日使うところですので働きかけを強くしていきたいと考えています。また、水飲み場に関する声も出されていますので、水飲み環境を含め検討したいと考えています。
廊　下	タイルのはがれが指摘され、壁の汚れなど綺麗にしてと意見が出されています。休み中にタイルは修理しましたが壁などは塗装しなければいけません。教育委員会などに働き掛けたいと考えています。廊下のタイルの割れはどうにもなりませんので、これからも、タイルのはがれに気付いたら教えてください。
グラウンド	グラウンドに遊具（ブランコ）整備を求める声が多く出されています。施設設備は工事を伴い学校では、どうにもできないので、教育委員会に要望していきたいと考えています。
その他	グラウンド同様、中庭に遊具（ブランコ）などの施設備品を求める声があります。また、水飲みに関する要望もありますので十分検討し改善できるところから計画的に行っていきたいと考えます。

アンケート集約は、Ｂ４で３Ｐとなっています。別紙で添付しましたのでご覧ください。

大沼中学校事務だより

Information

（インフォメーション・・・情　報）

2008/7/10（No.3）

（担当：大沼中学校事務職員　秋浜晋一）

部活動用の備品を購入しました。

６月下旬から７月初めにかけて「部活動用の備品」が入ってきました。

学校で使用する備品は、七飯町の教育予算の中から大沼中に配分されている学校予算（備品購入費）で購入しています。今年度の本校の部活動備品の予算は２２万９千円で、その金額の範囲内で各部活で必要なものを考え、職員会議での話し合いを経て購入しました。

【備品展示を行いました。】

今回入ってきた部活動備品をホールに展示し、生徒のみなさんに紹介しました。

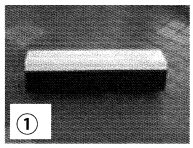
学校にあるものは、学校で生活するみんなの「共有財産」です。しかし、「どのようなものがあるのか？」「いつ、どのように購入したのか？」「お金はどこから出ているのか？」などについては、ほとんど知らないと思います。こうしたことを生徒のみなさんにも知ってもらうと同時に、学校のものをより大切に・有効に使ってもらいたいという考えから、備品展示をおこなっています。

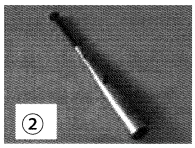
今後も、授業で使用する備品や吹奏楽部用の備品などが入ってくる予定ですが、その都度展示し、紹介します。

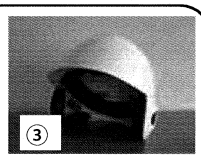
（今回、購入した部活動備品は以下のとおりです。）

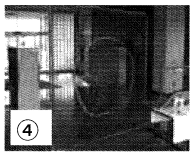
【野球部用】

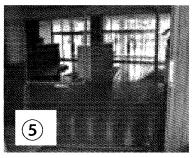
① ピッチャーズプレート（1個）
② 金属バット（1本）
③ ヘルメット（1個）
④ ティバッティングゲージ（1台）
⑤ ピッチングゲージ（1台）
⑥ コートブラシ（1本）
⑦ アルミレーキ（2本）

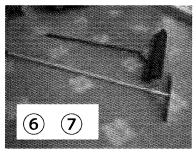






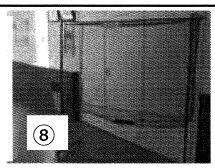






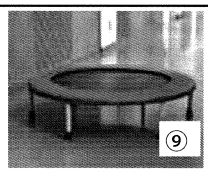
【卓球部用】

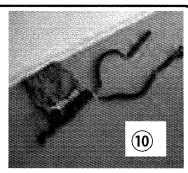
⑧ トレネット（1台）



【バスケ部用】

⑨ ジャンピングシェイプ（1台）
⑩ エコノミージャンパー（1個）





【NEWS!!】学校のパソコンがあたらしくなります！！

ＣＡＩ教室のパソコンやプリンタは、長年の使用により調子が悪くなってきていました。また、パソコンの基本ソフトが旧式の「ウインドウズ９８」であるため、新しいソフトが使用できないなど使いづらい面も多くあり、先生方や生徒のみなさんからも「パソコンを新しくしてほしい」との要望が出ていました。

このことから、ここ数年、七飯町教育委員会に「新しいパソコン＆プリンタへの入替え」をお願いしてきていましたが、今年度その要望がかない、夏休み中に新しいパソコンとプリンタが入ることになりました。また、これにあわせてインターネットへの接続環境も改善され、これまで以上に快適に使用できるようになると思います。

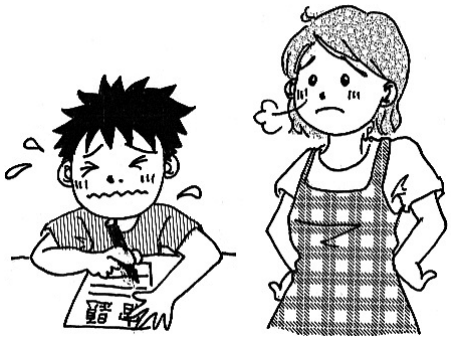
初めての「地域向け事務だより」はＡ４版の縦３段組みで、１段目は自分の生い立ちや趣味などの自己紹介を、２段目には事務職員が学校でどのような仕事をしているかを、３段目には事務職員の学校での日々の思いを「詩」にしたものを掲載しました。自分自身では納得のできる内容でしたが、発行後の地域からの反応はありませんでした。意気込みの割には手応えが得られず、若干拍子抜けした自分がいました。

その年の暮れ、地域の会合で、ある老人が私に「あの詩はよかったね」と語りかけてきました。地域全戸に配布された事務だよりでしたが、発行から半年経っていたこともあり、私は発行したことすら忘れていました。老人が私に会ったら詩の話をしようと、いつまでも覚えていてくれたことにいたく感激しましたが、同時にどこかで誰かが書いていたような文章に、ちょっと付け加えたような詩が褒められたことに対し、恥ずかしい思いもあり、内心は複雑でした。結局、私に感想を伝えてくれたのはこの老人ただ一人でした。

しかし、このことで、事務職員からの情報発信に意味が無いと簡単に否定することはしませんでした。直接私に感想が伝わってこないとしても、事務だよりを目にし、色々な思いを抱いた人は少なからずいたと信じていたからです。その証拠に発行後、学校事務に関する質問や相談を受ける機会がはるかに増えたからです。このように簡単には情報の双方向は実現しませんでしたが、これも情報の持つ特性の一つであり、これでいいのだと思いました。

６年前の歓迎会の日、心に誓ったことのもう一つは、この地をはな離任れるときに思いきり泣けるくらい学校と地域を愛したい――ということです。いまの段階で泣けるか泣けないかはわかりませんが、答えは来年の３月に出ます。自分がこの学校ですすめてきた学校事務の集大成としてのその答えは、６年前のねらいとは違う「地域向け事務だより」の最終号に載せたいと考えています。

〈参考文献〉
■北海道の学校事務　―深化・発展する領域―
　／北海道公立小中学校事務職員協議会編（2006年）
■北海道の学校事務　―第２集―
　／北海道公立小中学校事務職員協議会編（2008年）
■90年代の学校事務（試案）
　／北海道公立小中学校事務職員協議会編（1989年）
■学校事務労働の現状と課題（第10集）
　／北教組事務職員部職務確立検討委員会（2004年）



〈イラスト〉村山悠子
（札幌市立元町中学校教諭）